

《大原高校インターアクトクラブの出前講座を
提唱クラブである大原ロータリークラブがサポートしました》

その様子が掲載された千葉日報の記事です。

平和の大切さ訴え 大原高生、小学校で出前講座

平和が脅かされているウクライナの情勢を踏まえ、いすみ市に伝わる「平和の鐘」を題材に世界平和を考えてもらおうと、県立大原高校インターアクトクラブの部員たちが「平和学習キャラバン」として市内の小中学校を巡り、平和の大切さを訴えた。

平和の鐘は元々、旧大原町の寺にあった鐘。太平洋戦争中に供出されたが使用されず、米軍に接収された後にミネソタ州ダールズ市の市長室に飾られていた。1954年に町に返還され、戦争を繰り返さないように平和の鐘と名付けられた。

部員6人が訪れた東小へのキャラバンでは、3、4年生たちへ平和の鐘のいわれを映像で紹介。鐘をテーマにした絵本の読み聞かせや、退職女性教職員の会夷隅支部から受け継いだ戦争体験の紙芝居で戦争の悲惨さを伝えた。

部員たちはウクライナの国花であるヒマワリの鉢植えを児童に贈った。藤平柊部長（17）は「ウクライナで起きていることはひとつではなく、日本でも昔同じようなことがあったと忘れないでほしい」と話し、4年生の高橋佑月さん（9）は「戦争のない平和な世界になればいいな」と願っていた。



小学生へ平和の鐘について話す大原高生（左）＝いすみ市立東小



平和学習は市内各小学校で行う予定です。また今後は市外の訪問も予定しております。

新聞記事ではわからないのですが、財団の補助金を活用した大原高校ゆるキャラ「ハラコアラ」は小学生に大人気で、ハラコアラとの握手会が行われたり、どちらの小学校も授業の最後にハラコアラを囲んでの記念写真も撮影し、小学生は大喜びでした。インターアクトの生徒たちも頑張ってくれました。